

研究者ネットワークからの発信

大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 栗本智代

「社会に役に立つことであればいい、自分が問題意識をもったテーマを設定して研究し、人脈を広げ、同時にコーディネート力もつけなさい」。10年程前、私が現在の研究所へ異動してきた折、上司にこう言われた。研究員一人一人が自立して社会と接点を持ちつつ、所員同士はゆるやかにつながり情報共有しながら切磋琢磨する。エネルギー・文化研究所は、当時ではかなり前衛的なネットワーク研究所であったように思う。

テーマを模索する中で、大阪のまちが持つ潜在的な魅力に心ひかれ、それが今日活かしきれていないことに対して問題意識を持つようになった。大阪の土地性や人の営みが、独自の賑わいや芸能に直接反映されてきた“都市の歩み”さえ、ほとんど知られていない。「大阪に少しでも伝承力をつけたい」「まち物語を掘り起こしてわかりやすく楽しく語れる大阪人を育てたい」。こうして「なにわの語りべ」養成のための旗揚げ公演を行ったところ、行政の担当者の共感・協力を得て、市内の生涯学習センターで養成講座が実現した。その結果、約百名の卒業生のうち有志が定期的集まり、新規メンバーも加えながら「語りべの会」として勉強会を継続させている。今では、地域の祭り・イベントで発表するなど、地道だが確実に活動の領域を広げており、時々新聞にも紹介されるほどになった。

大阪の歴史や資源を見直し、今生きている人が楽しめるような発信ができないかと、観光ガイドボランティア育成のための手法やツールづくり等行政のお手伝いをしていた時期があるが、その延長上で「大人のための大阪ガイドブック」を作成したいと考えた。当初から一緒に活動してきた仲間、知人の紹介...等々で、有能な編集者、理解ある出版社にめぐり合い、著名な先生方にも編集の相談にのってもらった。その結果、32名の研究者が各専門分野からわかりやすく大阪を語るという、大人数の共著「大阪まち物語」(創元社発行)の出版が実現した。おかげさまで、大変好評をいただいている。

大阪のまちづくりに強い関心をもつ有識者、研究者同士が出会う機会は、予想以上に多い気がする。初対面でも共通の知人がいたり、産・官・学の壁をこえて、どこかでネットワークがぐるりとつながっている。これは大阪(関西)の特徴であるが、もう一步、実際に仕事を推し進める上で、特に組織の協同プロジェクトなどでは、各担当領域に縛られ過ぎず、しかし責任の所在を明確にしながらか手を携えて、事業や地域開発に取り組む意気込みや成功事例がもっとあってもいいだろう。

これから大阪の魅力を倍増させるにはどうすればいいか。大阪の文化力を経済力へどのようにつなげるか。こんなテーマで、あちこちで問題提起が行われている。大阪は、産業都市から集客都市への進化を提唱してきた。ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの開幕で、来阪者つまりビジターは確実に増えるであろうが、そのビジターに、アメリカ文化ではなく大阪の都市文化をどう味わってもらうかが課題である。現在、“大阪の文化的魅力の再編”という切り口で研究会を立ち上げつつあるが、そこでは、大阪を“ミュージアム・文化”都市であるとし、各施設や「場」など、従来の枠組みに捕らわれずに、文化的なつながりを確認できるような地図を描き、発信する試みが必要ではなからうか、という命題が拳がっている。大阪のまちの活性化に向けて、潜在的な魅力をリサイクル・リプロデュースするには、分野の壁を超えた新たなネットワーク構想が必要になりそうだ。

プロフィール

栗本智代（くりもとともよ）

大阪ガス（株） エネルギー・文化研究所 研究員。

1965年大阪生まれ

奈良女子大学家政学部卒業後、大阪ガス（株）に入社、
商品開発部を経て1991年より現部署へ配属。

関西、特に大阪の活性化を目指し、都市の個性や魅力
を探求。まちの物語を発掘しわかりやすく伝えていく
「なにわの語りべ」活動も展開してきた。

著書「大阪・水の都に浮かぶ劇場」（K B I 出版）

共著「大阪まち物語」（創元社）なにわ物語研究会編

現在、帝塚山学院大学非常勤講師

（その他、大阪府景観審議会委員、淀川河川公園

フォローアップ委員会委員 など）

< 連絡のつきやすい場所 >

〒530-0017

大阪市北区角田町8-47

阪急グランドビル15階

大阪ガス 株式会社

エネルギー・文化研究所 栗本智代

電話 0663660384

FAX 0663660370

メール tkurimot@osakagas.co.jp